

本邦産材の生産状況

579  
306

579-306  
\*1200800033729\*

Kodak Gray Scale  
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19  
© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches  
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black  
© Kodak, 2007 TM: Kodak





子

昭和四年三月

本邦ニ於ケル木材「パルプ」生産状況

農林省山林局



# 本邦ニ於ケル木材「パルプ」生産状況

## 目次

### 緒言

#### 第一節 本邦ニ於ケル木材「パルプ」製造状況

第一項 木材「パルプ」製造會社工場ノ變遷

第二項 木材「パルプ」ノ産額

第三項 木材「パルプ」原料使用額

#### 第二節 本邦ニ於ケル木材「パルプ」ノ輸出入状況

第一項 木材「パルプ」ノ輸入

第二項 木材「パルプ」ノ輸出

第三項 大正二年以降木材「パルプ」需給高累年比較

第四項 木材「パルプ」ノ市價





本邦ニ於ケル木材「バルプ」生産状況

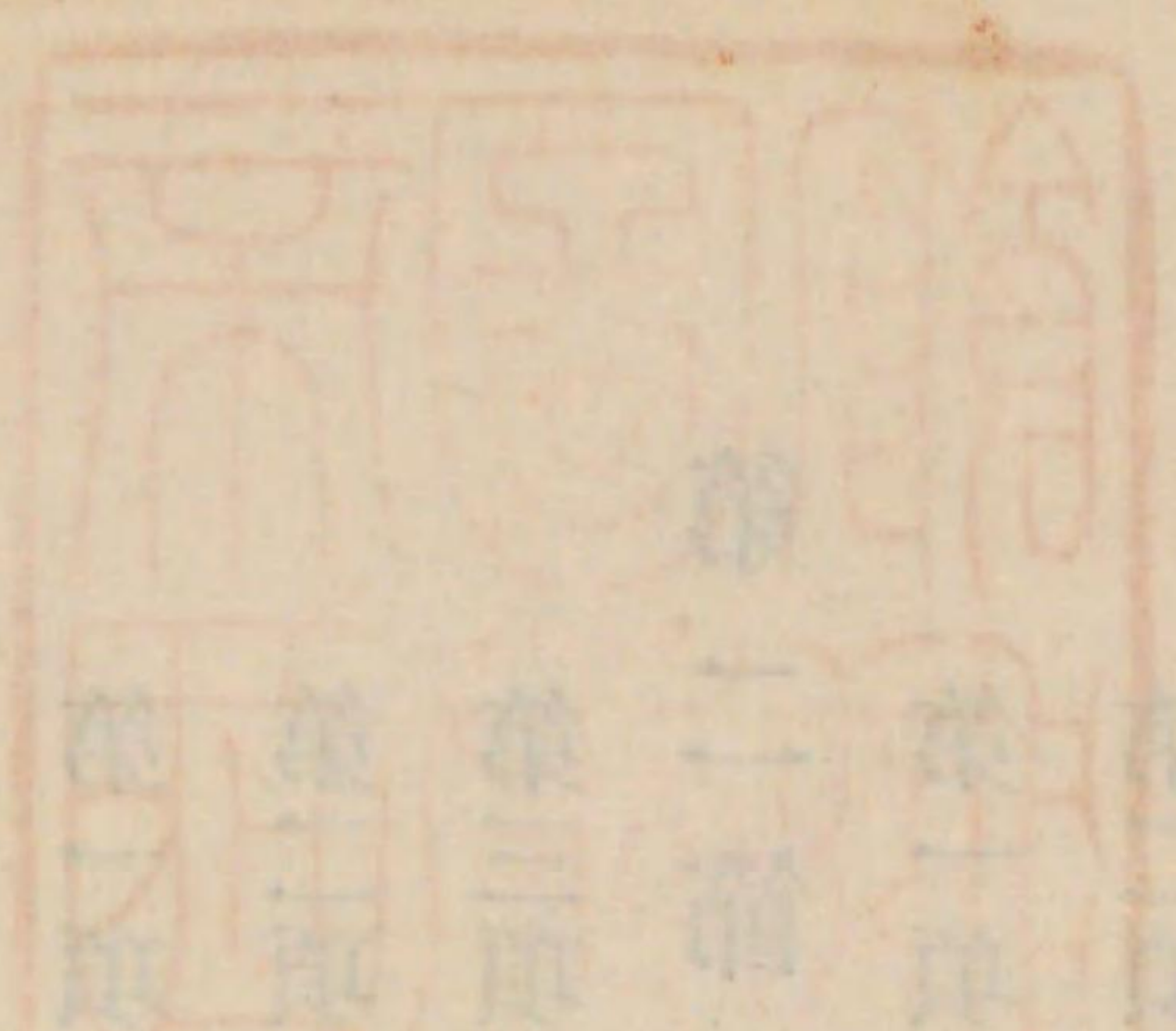
本邦ニ於ケル木材「バルプ」生産状況

(自昭和三年一月至昭和三年十二月)

緒言

本邦ニ於ケル木材「バルプ」ノ製造業ハ大正二年頃ヨリ漸次顯著ナル發達ヲ遂ケ大正九年迄ハ年々順調ナル徑路ヲ辿リ大正九年ニハ會社數十七、工場數三十一ヲ算シ木材「バルプ」ノ生産二十六萬八千餘噸ニ上リシモ翌十年ニハ財界ノ不況、工場ノ災厄、會社ノ併合等ノ影響ヲ受ケ同年ハ會社數十三、作業工場數二十八ニ減シ延テ其産額二十五萬噸トナリ生産稍々減少シタルモ爾來工場ノ新設既設工場擴張ノ結果其産額著シク増加シ昭和三年ニ於テハ五十六萬七千餘噸ノ多キニ達シ大正九年ニ比シ約十一割、昭和二年ヨリ六分ノ増加トナレリ尙ホ事業擴張ノ計畫アリ昭和四年ニハ約六十三萬餘噸ニ達スル見込ナリ

而シテ原料木材ノ使用量ニ就テハ大正九年ノ三百九十三萬八千餘石ニ對シ同年ニハ稍々減少シテ三百四十八萬餘石トナリシモ十一年以降逐年増加シ昭和三年中ハ大正十年ニ比シ十割増ヲ示シ昭和四年ニハ昭和三年ニ比シ更ニ一割一分ノ増加ヲ來サントスル見込ナリ



第一節 本邦ニ於ケル木材「バルプ」生産状況  
第二節 本邦ニ於ケル木材「バルプ」ノ輸出状況  
第三節 本邦ニ於ケル木材「バルプ」ノ輸入状況  
第四節 本邦ニ於ケル木材「バルプ」ノ消費状況  
第五節 本邦ニ於ケル木材「バルプ」ノ貯蓄状況  
第六節 本邦ニ於ケル木材「バルプ」ノ其他状況





## 第一節 本邦ニ於ケル木材「バルプ」製造狀況

### 第一項 木材「バルプ」製造會社工場ノ變遷

大正十年以降大正十五年ニ至ル六ケ年間ハ會社ノ組織ニ就キ種々變遷アリ殊ニ多數會社ノ併合ヲ見タリ即チ大正十年中王子製紙株式會社ハ樺太産業株式會社及朝鮮製紙會社ヲ合併シ超エテ大正十三年十二月北海工業株式會社ヲ買收セリ又富士製紙株式會社ハ大正十一年日本化學紙料株式會社ヲ十二年富士「バルプ」株式會社、十四年大日本製紙株式會社中川工場ヲ併合セリ尙ホ樺太工業株式會社モ大正十五年三月中央製紙及九州製紙ノ二大會社ヲ併合セリ而シテ一度事業ヲ開始セルモ其後休業中ナリシ三浦物産株式會社八束村工場ハ爾來「バルプ」製造ヲ開始セズ鴨綠江製紙株式會社ノ南滿洲安東工場ハ大正十一年八月ヨリ休業中ノ處昭和二年一月ヨリ又富士製紙株式會社樺太知取工場ハ大正十五年九月ヨリ事業ヲ開始セリ既設工場中内地材ノ供給困難トナレル結果王子製紙株式會社ノ静岡縣氣田工場ハ大正十一年二月ニ同社静岡縣中部工場ハ大正十三年九月二十五日樺太工業株式會社木曾工場ハ昭和三年八月ニ工場ヲ閉鎖シ富士製紙會社中川工場ハ同三年木材「バルプ」ノ製造ヲ中止セリ而シテ大正九年中會社數十七工場數三十一ニ對シ同十年ニハ會社數十三、作業工場二十八ヲ數ヘ昭和

三年ニハ六會社、二十八工場トナレリ前記作業工場二十八ノ中碎木「バルプ」(グラウンドバルプ)ノミヲ製造スルモノ七工場亞硫酸「バルプ」(サルファイトバルプ)ノミヲ製造スルモノ七工場、兩者ヲ併セ製造スルモノ十四工場トス現時木材「バルプ」ノ製造ヲ專業トスルモノハ王子製紙株式會社ノ樺太泊工場、同野田工場、富士製紙株式會社ノ北海道金山工場、同池田工場、樺太工業株式會社ノ泊居工場、東海紙料株式會社ノ静岡縣島田町工場、樺太木材紙料株式會社ノ伏木工場ノ五會社七工場ニシテ其内碎木「バルプ」ノミヲ製造スルモノ二工場亞硫酸「バルプ」ノミヲ製造スルモノ四工場兩者ヲ併セ行フモノ一工場トス

### 第二項 木材「バルプ」ノ産額

本邦ニ於ケル木材「バルプ」ノ産額ハ大正二年ニハ七萬六千餘噸ニシテ同九年迄ハ漸次増加シ同九年ハ二十六萬八千餘噸ニ上リシモ翌十年ニハ前年ノ約七%即チ一萬八千餘噸ヲ減シタリ然ルニ十一年ヨリ再ヒ年々増加シ昭和三年ニハ五十六萬七千餘噸ニ達シ前年ニ比シ六分大正九年ニ比スレハ十一割強ノ増加ヲ示セリ

而シテ大正九年迄ニ著シク生産ノ増加セル地方ハ樺太及北海道ナリシモ同十年中北海道及朝鮮ニ於テノミ産出稍々増加シテ北海道十二萬三千餘噸朝鮮一萬餘噸ヲ算セシモ樺太ニ於テハ五萬四千餘噸内地



ニ於テハ六萬一千餘噸ニ減少シタリ然ルニ翌十一年ニハ朝鮮ニ於テ若干ノ生産減少ヲ示セルモ樺太、北海道、内地何レモ増加セリ十二年及十三年中朝鮮ニハ其生産ナカリシモ樺太、北海道及内地ハ何レモ生産ヲ増加シ更ニ翌十四年ニハ樺太十二萬二千餘噸、北海道十七萬餘噸、内地十一萬三千餘噸、朝鮮八千二百八十噸ニ達シ十五年ニハ樺太十六萬一千餘噸、北海道十九萬四千餘噸、内地十三萬二千餘噸、朝鮮一萬二千餘噸翌昭和三年中ハ樺太二十三萬七千餘噸、北海道十八萬七千餘噸、内地十二萬八千餘噸朝鮮一萬三千餘噸トナレリ

本邦産木材「バルブ」大正四年以降昭和三年ニ至ル生産量ヲ示セハ次表ノ如シ

年次	生産量 (噸)	前年ニ比シ増(減)歩合	指数
大正四年	一一二、〇七五	1%	一〇〇
大正五年	一三四、九六八	二〇	一一〇
大正六年	一六九、〇三六	二五	一五一
大正七年	一九八、五九六	一七	一七七
大正八年	二三五、二二七	一八	二一〇
大正九年	二六八、二六一	一四	二三九
大正十年	二五〇、〇二七	(六・八)	二二三
大正十一年	三〇一、四二五	二二	二六九

年次	生産量 (噸)	前年ニ比シ増(減)歩合	指数
大正十二年	三三八、一〇六	一一	三〇二
大正十三年	三五七、〇八四	五	三一九
大正十四年	四一四、七〇六	一六	三七〇
大正十五年	五〇〇、三〇一	二〇	四四六
昭和元年	五三六、三九〇	七	四七九
昭和二年	五六七、五二九	六	五〇六
昭和三年	六三六、四一六	一二	五六八

備考 括弧内ノ数字ハ負數ヲ示ス

木材「バルブ」ノ將來ニ對スル生産見込ハ樺太ニ於テ三十萬七千餘噸、北海道二十三萬八千餘噸、内地十四萬一千餘噸、朝鮮一萬五千噸合計七十萬三千餘噸ニ達スヘク推定セラル

次ニ木材「バルブ」ノ種類別生産ニ就キ觀ルニ大正二年ニハ亞硫酸「バルブ」一萬五千七十七噸、碎木「バルブ」五萬四千四噸ニシテ其割合前者三割七分後者六割三分ナリシカ爾來亞硫酸「バルブ」ノ生産著シク増加シ同八年ヨリ遂ニ亞硫酸「バルブ」ハ碎木「バルブ」ノ産額ヲ凌駕スルニ至リ昭和三年ニハ亞硫酸「バルブ」三十一萬餘噸、碎木「バルブ」二十三萬七千二百餘噸「クラフトバルブ」二萬三百餘噸ノ産出ヲ見タリ而シテ其割合亞硫酸「バルブ」五割四分強、碎木「バルブ」四割一分「クラフトバルブ」約四分ニ當ル更ニ昭和三年中ニ於ケル木材「バルブ」ノ生産狀況ヲ述ヘンニ前年ニ比シ産出ノ増加セシ工場數十



六其増加額五萬千五百三十二噸ニ達セリ其内増加率ノ比較的著シキモノハ樺太工業株式會社ニアリテハ泊居工場、眞岡工場、八代工場、中津工場、王子製紙株式會社ニアリテハ豊原工場、新義州工場、富士製紙株式會社ニアリテハ富士第三工場、同神崎工場、池田工場、知取工場、落合工場、北越製紙株式會社新潟工場ノ十一工場トス其増加量五萬四千九百九十一噸ニシテ其他ノ増加量ハ僅ニ千四十一噸ニ過キス而シテ前年ニ比シ生産ノ減少セシモノハ十四工場其減産量ハ二萬三千九百九十三噸斯クテ結局前年ニ比シ三萬千三百三十九噸ノ増加トナル而シテ富士製紙株式會社樺太落合工場ニ於ケル「クラフトバルブ」ノ製造ハ大正十四年以來ノコトニ屬シ本邦ニ於テハ近時ノ發達ニ係ルモノナルモ昭和三年中ノ生産二萬三千六百噸ノ多キニ上レリ尙ホ最近ノ生産ニ係ル晒「バルブ」ハ昭和三年中樺太工業株式會社泊居工場三千八十噸、同惠須取工場一萬一千五百噸、計一萬四千五百八十噸ニ及ヒ更ニ本年ハ二萬五千噸ヲ産出ノ見込ナリ

會社、工場別「バルブ」ノ産額

會社 工場	「バルブ」ノ種類	昭和四年 將來見込				
		昭和三年見込	昭和二年	昭和元年	正十五年	正十四年
王子製紙株式會社	サルプ パルプ グランド バ	三、七五〇	二、五〇〇	二、四、五三〇	二、五、三四〇	三、〇〇〇
	抄紙兼業					

會社 工場	「バルブ」ノ種類	昭和四年 將來見込				
		昭和三年見込	昭和二年	昭和元年	正十五年	正十四年
北海道苫小牧工場	グランド バ	七三、〇三三	六九、九七七	六八、七六一	七三、〇〇〇	九七、〇〇〇
富山縣伏木工場	グランド バ	九八、三三三	九四、五二七	九二、五六六	九八、〇〇〇	二九、〇〇〇
樺太大泊工場	サルプ パルプ グランド バ	一一、五三三	一三、六〇〇	一一、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
同 豊原工場	サルプ パルプ グランド バ	一一、五三三	一一、九〇四	一一、六六一	一一、〇〇〇	一一、〇〇〇
同 野田工場	サルプ パルプ グランド バ	二二、三九九	三三、五四六	三五、一九五	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
同 同	サルプ パルプ グランド バ	二二、三九九	三三、五四六	三五、一九五	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
朝鮮新義州工場	サルプ パルプ グランド バ	一四、八六五	一五、四一一	一五、六三三	一四、〇〇〇	一七、〇〇〇
合 計	合 計	一七、五六〇	一七、四、三七四	一八、二、三三二	一九、四、〇〇〇	二二、八、〇〇〇
富士製紙株式會社	サルプ パルプ グランド バ	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
同 富士第一工場	サルプ パルプ グランド バ	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
同 富士第二工場	サルプ パルプ グランド バ	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
同 富士第三工場	サルプ パルプ グランド バ	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
同 計	同 計	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
抄紙兼業	抄紙兼業					
グランド バ	グランド バ	七三、〇三三	六九、九七七	六八、七六一	七三、〇〇〇	九七、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
グランド バ	グランド バ	九八、三三三	九四、五二七	九二、五六六	九八、〇〇〇	二九、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	一一、五三三	一三、六〇〇	一一、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	一一、五三三	一一、九〇四	一一、六六一	一一、〇〇〇	一一、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	二二、三九九	三三、五四六	三五、一九五	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	二二、三九九	三三、五四六	三五、一九五	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	一四、八六五	一五、四一一	一五、六三三	一四、〇〇〇	一七、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
合 計	合 計	一七、五六〇	一七、四、三七四	一八、二、三三二	一九、四、〇〇〇	二二、八、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
富士製紙株式會社	サルプ パルプ グランド バ	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
同 富士第一工場	サルプ パルプ グランド バ	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
同 富士第二工場	サルプ パルプ グランド バ	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
同 富士第三工場	サルプ パルプ グランド バ	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
同 計	同 計	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
抄紙兼業	抄紙兼業					
グランド バ	グランド バ	七三、〇三三	六九、九七七	六八、七六一	七三、〇〇〇	九七、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
グランド バ	グランド バ	九八、三三三	九四、五二七	九二、五六六	九八、〇〇〇	二九、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	一一、五三三	一三、六〇〇	一一、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	一一、五三三	一一、九〇四	一一、六六一	一一、〇〇〇	一一、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	二二、三九九	三三、五四六	三五、一九五	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	二二、三九九	三三、五四六	三五、一九五	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	一四、八六五	一五、四一一	一五、六三三	一四、〇〇〇	一七、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
合 計	合 計	一七、五六〇	一七、四、三七四	一八、二、三三二	一九、四、〇〇〇	二二、八、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
富士製紙株式會社	サルプ パルプ グランド バ	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
同 富士第一工場	サルプ パルプ グランド バ	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
同 富士第二工場	サルプ パルプ グランド バ	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
同 富士第三工場	サルプ パルプ グランド バ	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
同 計	同 計	三、六三三	三、六三九	二、三九四	—	—
抄紙兼業	抄紙兼業					
グランド バ	グランド バ	七三、〇三三	六九、九七七	六八、七六一	七三、〇〇〇	九七、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
グランド バ	グランド バ	九八、三三三	九四、五二七	九二、五六六	九八、〇〇〇	二九、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	一一、五三三	一三、六〇〇	一一、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	一一、五三三	一一、九〇四	一一、六六一	一一、〇〇〇	一一、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	二二、三九九	三三、五四六	三五、一九五	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	二二、三九九	三三、五四六	三五、一九五	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
サルプ パルプ グランド バ	サルプ パルプ グランド バ	一四、八六五	一五、四一一	一五、六三三	一四、〇〇〇	一七、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					
合 計	合 計	一七、五六〇	一七、四、三七四	一八、二、三三二	一九、四、〇〇〇	二二、八、〇〇〇
抄紙兼業	抄紙兼業					







岐阜縣中津町工場		長野縣大桑町木曾工場		合 計	
サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ
三、七七一	六、四六五	一〇、二三六	六、九一三	九、〇六五	三、七七一
三、七三三	六、〇九四	九、八〇七	七、五五〇	二、三、九一三	三、七三三
三、五七一	八、四八九	一三、〇六〇	六、五六四	一三六、六八二	三、五七一
三、七二七	一〇、〇七八	一三、八〇五	三、八六九	一四六、四四四	三、七二七
三、八〇〇	一三、七〇〇	一七、五〇〇	—	一六七、三〇〇	三、八〇〇
三、八〇〇	一四、〇〇〇	一七、八〇〇	—	一八〇、四五〇	三、八〇〇
抄紙兼業 ゼスター臺數八、ダイ					
昭和三年八月閉鎖					

東海紙料株式會社		北越製紙株式會社		新 潟 工 場		樺太木材紙料株式會社	
グ ラ ウ ン ド バ	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ	サ ル フ ア イ ト	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ
一〇、三三〇	—	三、四四三	—	一、〇七〇	—	—	—
八、〇三六	—	五、九三〇	—	四、四七〇	—	—	—
四、二三五	—	四、二四五	—	二、八一〇	—	—	—
四、二九三	—	五、六二四	—	二、六五〇	—	—	—
七、〇五〇	—	六、八四〇	—	二、六五〇	—	—	—
七、〇五〇	—	八、七三〇	—	二、六五〇	—	—	—
一、二〇〇	—	一〇、〇〇〇	—	—	—	—	—
バルブ專業、本社ノ前身ハ 株式會社新宮商行ナリ 株式會社新宮商行ナリ グラインダー臺數二、ダイ ゼスター臺數一							

富山縣伏木工場		合 計	
サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ
一、〇七〇	—	四、四七〇	—
—	—	五、九三〇	—
—	—	四、二四五	—
—	—	五、六二四	—
—	—	六、八四〇	—
—	—	八、七三〇	—
—	—	一〇、〇〇〇	—
抄紙兼業 ゼスター臺數一、ダイ			

10

鴨綠江製紙株式會社		南滿洲安東工場		合 計	
サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ
—	—	二二〇、六七二	—	二二〇、六七二	—
—	—	二五八、六六三	—	二五八、六六三	—
—	—	二二〇、〇一〇	—	二二〇、〇一〇	—
—	—	三三七、〇一九	—	三三七、〇一九	—
—	—	三六四、三六一	—	三六四、三六一	—
—	—	三二二、三六四	—	三二二、三六四	—
—	—	二六、七〇〇	—	二六、七〇〇	—
—	—	七〇三、四六五	—	七〇三、四六五	—
抄紙兼業 ゼスター臺數三、ダイ					

外		合 計	
サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ
—	—	四、四七〇	—
—	—	五、九三〇	—
—	—	四、二四五	—
—	—	五、六二四	—
—	—	六、八四〇	—
—	—	八、七三〇	—
—	—	一〇、〇〇〇	—
抄紙兼業 ゼスター臺數一、ダイ			

鴨綠江製紙株式會社南滿洲安東縣工場ノ分		合 計	
サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ	サ ル フ ア イ ト	グ ラ ウ ン ド バ
—	—	四、〇五五	—
—	—	一、四五〇	—
—	—	四、二五三	—
—	—	一、四九四	—
—	—	五、七四七	—
—	—	六、六九〇	—
—	—	七、二〇〇	—
抄紙兼業 ゼスター臺數一、ダイ			

備考  
一、本表ニ於テハ單位以下ノ端數ハ四捨五入シタルモノナリ  
二、日本化學紙料株式會社ノ樺太落合工場及富士「バルブ」株式會社ノ池田工場ハ富士製紙株式會社ニ北海工業株式會社ノ伏木工場ハ王子製紙株式會社ニ尙ホ九州製紙株式會社、中央製紙株式會社ハ樺太工業株式會社ニ併合セルヲ以テ各該當會社ノ内ニ包含セシメ之ヲ掲記セリ  
三、樺太工業株式會社ノ惠須取工場ハ前鶴城工場ナリ株式會社新宮商行伏木工場ハ大正十五年一月新設ノ樺太木材紙料株式會社ニ讓渡セリ  
四、囊ニ木材「バルブ」ノ製造ヲ開始シタル大日本製紙株式會社深川區千田町工場同東平井町第二工場ハ大正九年六月ヨリ休業大正十二年ノ大震災ノ際工場燒失シタルヲ以テ本表ニハ之ヲ掲記セス  
五、鴨綠江製紙株式會社ノ南滿洲安東工場ノ分ハ參考ノ爲括弧ヲ附シ記載セルモ本表産額總計ニ加算セス（以下同シ）

11



木材「パルプ」ノ地方及種類別生産額

工場所在地	樺太		北海道	内地	朝鮮	合計
	サルフアイトパルプ	グラウンドパルプ				
大正十四年	110,974	1,130	112,104	25,828	8,210	146,342
大正十五年	154,576	6,856	161,432	29,638	12,307	203,373
昭和二年	190,508	8,918	199,426	28,487	5,396	233,317
昭和三年	198,733	18,361	217,094	33,338	13,296	257,726
昭和四年	227,663	38,981	266,644	35,675	15,000	334,313
将来見込	233,078	49,136	282,214	40,165	15,000	366,513

木材「パルプ」産額ノ地方別割合ヲ示セハ次ノ如シ

工場所在地	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年見込	将来見込
樺太	16,433	21,383	23,790	28,365	37,924
北海道	194,531	193,506	187,968	100,464	228,963
内地	131,011	131,051	128,875	137,587	141,588
朝鮮	12,377	5,396	13,396	15,000	15,000
合計	500,352	536,736	567,590	626,352	736,476

工場所在地	大正十五年		昭和二年		昭和三年		昭和四年見込		将来見込	
	木材「パルプ」産額	同百分率	木材「パルプ」産額	同百分率	木材「パルプ」産額	同百分率	木材「パルプ」産額	同百分率	木材「パルプ」産額	同百分率
樺太	16,433	3.3%	21,383	3.9%	23,790	4.2%	28,365	4.5%	37,924	5.1%
北海道	194,531	38.9%	193,506	36.1%	187,968	33.1%	100,464	16.0%	228,963	31.1%
内地	131,011	26.2%	131,051	24.4%	128,875	22.7%	137,587	21.9%	141,588	19.2%
朝鮮	12,377	2.5%	5,396	1.0%	13,396	2.4%	15,000	2.4%	15,000	2.0%
合計	500,352	100.0%	536,736	100.0%	567,590	100.0%	626,352	100.0%	736,476	100.0%

更ニ昭和三年及同四年見込木材「パルプ」産額ニ就キ種類別ノ割合ヲ示セハ左表ノ如シ



種別	在工場場所	パルプ工場				
		樺太	北海道	内地	合計	樺太
サルフアイトパルプ	工場所在地	19,433噸	1,300	11,486	21,739	45,173
クラフトパルプ	工場所在地	94,695噸	9,031	7,708	103,434	147,707
合計	工場所在地	114,128噸	10,331	19,194	133,653	192,880
	工場所在地	64,641噸	6,056	6,943	71,640	107,877
	工場所在地	6,300噸	2,094	7,050	8,394	12,567
	工場所在地	43,327噸	3,982	7,191	54,500	75,303
	工場所在地	49,801噸	2,072	6,752	58,625	82,870
	工場所在地	5,000噸	1,561	1,433	7,994	11,128
	工場所在地	10,923噸	483	1,913	13,319	18,435
	工場所在地	27,696噸	374	1,913	29,983	41,381
	工場所在地	21,311噸	100.0	2,696	24,007	32,700
	工場所在地	11,701噸	100.0	2,701	14,402	19,600
	工場所在地	26,701噸	100.0	2,701	29,402	40,000
	工場所在地	56,752噸	100.0	2,752	59,504	81,256
	工場所在地	57,777噸	100.0	2,777	60,554	82,331
	工場所在地	57,777噸	100.0	2,777	60,554	82,331

種別	在工場場所	パルプ工場				
		樺太	北海道	内地	合計	樺太
サルフアイトパルプ	工場所在地	19,433噸	1,300	11,486	21,739	45,173
クラフトパルプ	工場所在地	94,695噸	9,031	7,708	103,434	147,707
合計	工場所在地	114,128噸	10,331	19,194	133,653	192,880
	工場所在地	64,641噸	6,056	6,943	71,640	107,877
	工場所在地	6,300噸	2,094	7,050	8,394	12,567
	工場所在地	43,327噸	3,982	7,191	54,500	75,303
	工場所在地	49,801噸	2,072	6,752	58,625	82,870
	工場所在地	5,000噸	1,561	1,433	7,994	11,128
	工場所在地	10,923噸	483	1,913	13,319	18,435
	工場所在地	27,696噸	374	1,913	29,983	41,381
	工場所在地	21,311噸	100.0	2,696	24,007	32,700
	工場所在地	11,701噸	100.0	2,701	14,402	19,600
	工場所在地	26,701噸	100.0	2,701	29,402	40,000
	工場所在地	56,752噸	100.0	2,752	59,504	81,256
	工場所在地	57,777噸	100.0	2,777	60,554	82,331
	工場所在地	57,777噸	100.0	2,777	60,554	82,331







三年ニハ前年ヨリ一割一分ノ増加ヲ見其使用額七百九十萬五千餘石ノ多キニ及ヘリ而シテ大正九年迄ノ使用量ノ著シク増加セル地方ハ樺太及北海道ニシテ樺太百三十五萬餘石、北海道百六十萬七千餘石ナルニ對シ内地ニ於テハ僅ニ七十六萬九千餘石ヲ算スルニ過キス朝鮮ニ於テハ大正八年事業ヲ開始シ九年ニハ二十一萬餘石ヲ使用セリ超エテ大正十一年以降昭和二年迄ハ内地、北海道、樺太ニ於ケル木材ノ使用量ヲ年々増加セリ但シ昭和三年中ノ内地ハ前年ヨリ約三割ヲ増加シ百四十三萬二千五百一十石トナリ、北海道ハ約五厘ノ減少ヲ示シテ二百四十一萬五千七百七十二石、樺太ハ一割三分ヲ増加シ三百八十二萬五千九百二十五石ヲ算セリ而シテ曩キニ休業中ノ朝鮮工場ニ於テモ大正十四年下半年ヨリ事業ヲ開始シ大正十五年中ハ二十萬三千八百四十四石ナリシガ昭和三年ニハ二十三萬六千二百三十六石ノ多キニ及ヘリ

製紙原料木材ニ就キ大正四年以降昭和三年ニ至ル累年ノ使用量ヲ比較スルニ次表ノ如シ

年次	使用量(石)	前年ニ比シ増(減)歩合(%)	指數
大正四年	一、四三一、五九一		一〇〇
大正五年	一、七九三、八六九	二五	一二五
大正六年	二、三一九、二六七	二九	一六二
大正七年	二、七六八、〇六七	一九	一九三

年次	使用量(石)	前年ニ比シ増(減)歩合(%)	指數
大正八年	三、三八九、六三〇	二二	二三七
大正九年	三、九三八、三六〇	一六	二七五
大正十年	三、四八七、五五七	(二・四)	二四四
大正十一年	四、一八四、五八〇	二〇	二九二
大正十二年	四、六一〇、四〇五	一〇	三二二
大正十三年	四、八三二、五二一	五	三三八
大正十四年	五、六七二、九六〇	一七	三九六
大正十五年	七、〇一〇、四二三	二四	四九〇
昭和元年	七、〇九三、二二〇	一	四九五
昭和二年	七、九〇五、八八四	一一	五五二
昭和三年	八、八一五、六四二	一一	六一六

原料木材ノ將來ニ於ケル使用見込額ハ曩ニ九百六十七萬四千餘石ト推定セラレシカ工場ノ伸縮擴張等ニヨリテ異動アルヲ免レサル所ナルモ樺太ニ於テハ四百八十四萬三千餘石、北海道二百九十七萬二千石内地ニ於テ百七十萬八千餘石、朝鮮ニ於テ二十四萬石合計九百七十六萬四千餘石ニ達スヘク推定セラル次ニ原料木材ノ產地別ニ就キ之ヲ見ルニ大正二年ニハ内地材十二萬七千餘石、北海道材八十五萬二千餘石、樺太材三萬三千餘石ニ過キサリシモ大正九年ニハ内地材十二萬一千餘石、北海道材百九十七萬四千餘石、樺太材百六十三萬一千餘石トナリ北海道材、樺太材ハ何レモ著シク増加シ更ニ朝鮮材



二十一萬餘石ヲ加ヘタリ大正十年ニハ北海道材、百九十九萬餘石、朝鮮材二十二萬八千餘石トナリシニ内地材ハ十萬六千餘石、樺太材ハ百十三萬六千餘石ニ減少シタルモ新ニ西伯利材二萬三千餘石ノ使用ヲ見タリ翌十一年ニハ西伯利材及樺太材著シク増加シ又北海道材モ亦稍々増加ヲ見タリシカ内地材及朝鮮材ハ何レモ其量ヲ減シタリ更ニ大正十二年同十三年同十四年同十五年ノ狀況ヲ見ルニ獨リ樺太材、北海道材ハ年ヲ逐フテ増加シ西伯利材ハ十二年ニ増加ヲ示セルモ翌十三年ニハ前年ノ約半額ニ下リ更ニ大正十四年以降久シク之カ使用ヲ見サリシモ昭和三年ニ一千百餘石ヲ使用セリ之ニ反シ北海道材ハ十二年ニ稍々減少ヲ見タルノミニシテ翌十三年ニハ再ヒ増加シ更ニ大正十四年同十五年中ハ引續キ其量ヲ増シタルモ昭和二年同三年ハ減少ノ傾向ヲ示シ昭和三年中ノ使用額二百四十一萬一千餘石トナレリ而シテ内地材ハ近時逐年激減ノ一方ニ在リテ昭和三年中三百餘石ヲ使用セリ即チ大正二年ヨリ同八年迄ハ次第ニ増加セルモ同八年ノ二十萬七千餘石ヲ最高トシ翌九年ヨリ年々減少ヲ續ケ大正十五年ニハ僅ニ一萬九千五百五十石昭和三年三百六十九石ヲ使用セルニ過キスシテ何レモ内地工場ニ供給セラレタルモノナリ

次ニ北海道材ハ大正二年僅ニ八十五萬二千餘石ノ使用ニ過キサリシカ爾來歲ト共ニ増加シ同十年ニハ百九十九萬二千餘石、同十一年ニハ二百十二萬五千餘石、同十二年ハ稍々減少シ二百十萬三千餘石トナリ同十三、十四、十五年ニハ年々増加ノ一方ニ在リシモ昭和二、三年中ハ何レモ前年ヨリ稍々減少ヲ示セリ

樺太材ニ就テハ大正二年ニハ僅ニ三萬三千餘石ナリシモ爾來急激ニ増加シ同九年ニハ百六十三萬一千餘石トナリ同十年ハ一旦百十三萬六千餘石ニ減少セシモ翌十年以降年々激増シ大正十一年百七十萬三千餘石、同十二年二百三十一萬餘石、同十三年二百五十一萬三千餘石、同十四年三百二十九萬五千餘石同十五年ハ四百三十四萬五千餘石、昭和二年中ハ四百五十二萬三千餘石、同三年五百二十六萬八千餘石ニ増加セリ、昭和三年中ノ同材ニシテ内地工場ニ於テ使用セシモノハ百四十三萬餘石、朝鮮工場ニ於テ使用セシモノ一萬一千餘石ナルカ故ニ三百八十二萬五千餘石ハ樺太工場ニ於テ使用セルモノナリ次ニ工場所在地別ニ原料木材ノ使用量ヲ見ルニ昭和三年中内地工場ニ於テ百四十三萬二千餘石、北海道工場二百四十一萬一千餘石、樺太工場三百八十二萬五千餘石ヲ算セリ

而シテ同年中内地工場ノ使用量ヲ產地別ニ就キ之ヲ見ルニ前年ト同シク樺太材最モ多ク其額百四十三萬餘石ニシテ前年ノ同材使用量ヨリ三割強ノ増加ヲ示セリ尙ホ北海道材ハ昭和二、三年中ハ皆無トナリ大正十一年迄ノ情勢トハ其趣ヲ一變セリ

西伯利材ニ就テハ大正十年ニハ富士製紙株式會社ニ於テ二萬三千餘石ノ使用ヲ見タルニ止マリシモ大正十二年ニハ富士製紙株式會社七萬一千餘石、北越製紙會社五千餘石計七萬六千餘石ヲ使用シタルノミ超エテ同十四、十五、昭和二年中ニ於テモ之カ使用ヲ見ヌ然ルニ昭和三年ニ至リ王子製紙會社伏木工場ニ於テ千餘石ノ使用ヲ見タリ



會社、工場別原料木材ノ使用額

會社 工場	木材ノ產地	大正十四年	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	將來見込	摘要	
王子製紙株式會社	北海道材	1,104,363	1,167,394	1,158,097	1,137,691	1,100,000	1,150,000	昭和三年度使用材中 屑材三、一〇七石ヲ 含ム	
	樺太材		43,330	6,700					
	西伯利材								
	計	1,104,363	1,210,724	1,164,877	1,137,691	1,100,000	1,150,000		
	樺太大泊工場	樺太材	223,364	222,700	228,733	226,583	230,000		230,000
	同 豐原工場	樺太材	395,264	426,133	370,337	609,603	600,000		600,000
同 野田工場	樺太材	255,936	250,105	248,622	226,160	220,000	230,000		
朝鮮新義州工場	朝鮮材	70,940	66,210	39,560	11,440				
富山縣伏木工場	計	151,511	103,844	195,726	226,226	220,000	240,000	昭和三年度使用材中 屑材七三九石ヲ含ム	
	西伯利材								
	樺太材	74,040	90,700	105,660	106,259	110,000	110,000		
	內地材	77,471	90,750	105,660	109,366	110,000	130,000		
會 計	合 計	1,104,363	1,167,394	1,158,097	1,137,691	1,100,000	1,150,000		
	樺太材	1,008,606	1,020,128	1,189,660	1,170,044	1,200,000	1,250,000		
	朝鮮材	81,573	135,634	56,266	24,796	240,000	240,000		
	西伯利材				1,106		110,000		
	合 計	2,194,540	2,383,056	2,503,955	2,533,555	2,770,000	3,110,000		
	富士製紙株式會社	北海道材	17,105	15,516					
静岡縣富士第一工場	樺太材	71,455	115,311	78,977	58,307	71,029	75,000		
	西伯利材								
	計	88,550	115,311	78,977	58,307	71,029	75,000		
	內地材								
同 富士第二工場	北海道材	13,431	11,401						
	樺太材	76,948	92,169	78,244	84,281	65,248	66,000		
	西伯利材								
	計	90,379	103,570	78,244	84,281	65,248	66,000		
同 富士第三工場	北海道材	24,770	24,778						
	樺太材	24,189	18,246	33,335	24,079	33,523	24,000		
	西伯利材								
	計	48,959	43,024	33,335	24,079	33,523	24,000		
會 計	合 計	1,666,691	2,082,844	2,181,237	2,100,471	2,133,523	2,144,000		
	內地材								

會社 工場	木材ノ產地	大正十四年	大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	將來見込	摘要	
王子製紙株式會社	北海道材	1,104,363	1,167,394	1,158,097	1,137,691	1,100,000	1,150,000	昭和三年度使用材中 屑材三、一〇七石ヲ 含ム	
	樺太材		43,330	6,700					
	西伯利材								
	計	1,104,363	1,210,724	1,164,877	1,137,691	1,100,000	1,150,000		
	樺太大泊工場	樺太材	223,364	222,700	228,733	226,583	230,000		230,000
	同 豐原工場	樺太材	395,264	426,133	370,337	609,603	600,000		600,000
同 野田工場	樺太材	255,936	250,105	248,622	226,160	220,000	230,000		
朝鮮新義州工場	朝鮮材	70,940	66,210	39,560	11,440				
富山縣伏木工場	計	151,511	103,844	195,726	226,226	220,000	240,000	昭和三年度使用材中 屑材七三九石ヲ含ム	
	西伯利材								
	樺太材	74,040	90,700	105,660	106,259	110,000	110,000		
	內地材	77,471	90,750	105,660	109,366	110,000	130,000		
會 計	合 計	1,104,363	1,167,394	1,158,097	1,137,691	1,100,000	1,150,000		
	樺太材	1,008,606	1,020,128	1,189,660	1,170,044	1,200,000	1,250,000		
	朝鮮材	81,573	135,634	56,266	24,796	240,000	240,000		
	西伯利材				1,106		110,000		
	合 計	2,194,540	2,383,056	2,503,955	2,533,555	2,770,000	3,110,000		
	富士製紙株式會社	北海道材	17,105	15,516					
静岡縣富士第一工場	樺太材	71,455	115,311	78,977	58,307	71,029	75,000		
	西伯利材								
	計	88,550	115,311	78,977	58,307	71,029	75,000		
	內地材								
同 富士第二工場	北海道材	13,431	11,401						
	樺太材	76,948	92,169	78,244	84,281	65,248	66,000		
	西伯利材								
	計	90,379	103,570	78,244	84,281	65,248	66,000		
同 富士第三工場	北海道材	24,770	24,778						
	樺太材	24,189	18,246	33,335	24,079	33,523	24,000		
	西伯利材								
	計	48,959	43,024	33,335	24,079	33,523	24,000		
會 計	合 計	1,666,691	2,082,844	2,181,237	2,100,471	2,133,523	2,144,000		
	內地材								



同	芝川工場	北海道材	一七、二五六	一四、七〇九	六七、二〇一	四三、九六四	四二、四二六	四五、〇〇〇
		樺太材	九四、〇四六	一〇九、二三八	六七、二〇一	四三、九六四	四二、四二六	四五、〇〇〇
		西伯利材						
	計		一一、〇三三	一二、九四七	六七、二〇一	四三、九六四	四二、四二六	四五、〇〇〇
	北海道材							
	樺太材		一四、五五九	二四、一九一	三三、四五五	二六、二一六	二七、六九三	二八、〇〇〇
	西伯利材							
	計		一四、五五九	二四、一九一	三三、四五五	二六、二一六	二七、六九三	二八、〇〇〇
	樺太材							
	北海道材							
	樺太材							
	計		二二、七四九	二二、六七九	二五、五三三	三、七八七	四七、五五三	四八、〇〇〇
	北海道材		五〇四、七四九	五九三、五四三	五六〇、七七一	五七九、三三六	五九九、二三三	六〇〇、〇〇〇
	北海道材		六七、七九七	六九、六三三	六三、九一三	六〇、二七三	五七、八八九	七八、〇〇〇
	北海道材		一六四、五三八	二七五、三二三	二八〇、九九七	二六七、七八四	三〇二、六九〇	三六六、〇〇〇
	北海道材		三三〇、八九五	三三六、六五七	三四九、四四九	三六六、五六〇	三七八、〇〇〇	三七八、〇〇〇
	樺太材		四五七、五二四	五九八、八二四	五九八、八四四	七七三、〇四六	一、〇〇九、九七六	一、〇〇九、〇〇〇
	樺太材							
	北海道材							
	計		二二、七四九	二二、六七九	二五、五三三	三、七八七	四七、五五三	四八、〇〇〇
	兵庫縣神崎工場							
	樺太材							
	計		二二、七四九	二二、六七九	二五、五三三	三、七八七	四七、五五三	四八、〇〇〇
	北海道江別工場							
	北海道材							
	計		二二、七四九	二二、六七九	二五、五三三	三、七八七	四七、五五三	四八、〇〇〇
	同 金山工場							
	北海道材							
	計		二二、七四九	二二、六七九	二五、五三三	三、七八七	四七、五五三	四八、〇〇〇
	同 釧路工場							
	北海道材							
	計		二二、七四九	二二、六七九	二五、五三三	三、七八七	四七、五五三	四八、〇〇〇
	同 池田工場							
	北海道材							
	計		二二、七四九	二二、六七九	二五、五三三	三、七八七	四七、五五三	四八、〇〇〇
	樺太落合工場							
	樺太材							
	計		二二、七四九	二二、六七九	二五、五三三	三、七八七	四七、五五三	四八、〇〇〇
	同 知取工場							
	樺太材							
	計		二二、七四九	二二、六七九	二五、五三三	三、七八七	四七、五五三	四八、〇〇〇
	北海道材							
	計		二二、七四九	二二、六七九	二五、五三三	三、七八七	四七、五五三	四八、〇〇〇

東京府江戸川工場	樺太材	三三、五四九	二八、九七一	一一、七九三	一一、四三八	二一、〇七三	二五、〇〇〇
	計	三三、五四九	二八、九七一	一一、七九三	一一、四三八	二一、〇七三	二五、〇〇〇
	内地材						
	北海道材						
	樺太材						
	計						
	西伯利材						
	計	二、〇三三、二六〇	二、五五九、三六五	二、五二四、六三三	三、〇六〇、九二三	三、五二〇、六六三	三、七六八、七五〇
合 計							
	樺太材						
	計						
	内地材						
	北海道材						
	樺太材						
	計						
	西伯利材						
	計						
	樺太工業株式會社						
	樺太泊居工場						
	樺太材						
	計						
	同 惠須取工場						
	樺太材						
	計						
	同 眞岡工場						
	樺太材						
	計						
	熊本縣坂本工場						
	樺太材						
	計						
	同 八代工場						
	樺太材						
	計						
	岐阜縣中津町工場						
	樺太材						
	計						
	長野縣大桑町						
	樺太材						
	計						
	同 曾工場						
	樺太材						
	計						
	同 木曾工場						
	樺太材						
	計						







製造原料木材産地別使用額

木材ノ産地	工場所在地					工場所在地	昭和十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年見込	将来見込
	内地	内地	北海道	計	内地						
内地材	1,936	67,405				石				3,690	4,000
北海道材		2,442,427								2,577,000	2,577,000
計		2,509,833								2,580,690	2,580,690
樺太材		1,423,053								1,423,053	1,423,053
朝鮮材		4,330								4,330	4,330
計		2,882,113								2,882,113	2,882,113
滿洲材										4,558,818	4,558,818
計		4,345,595								6,748,715	6,748,715
西伯利材										1,100,000	1,100,000
計										1,100,000	1,100,000
合 計										11,250,000	11,250,000

製紙原料木材ノ地方別使用割合ヲ示セハ左表ノ如シ

工場所在地	昭和十五年		昭和二年		昭和三年		昭和四年見込		将来見込	
	材積	百分率	材積	百分率	材積	百分率	材積	百分率	材積	百分率
内地工場	1,508,810	21.5%	1,094,303	15.4%	1,433,151	18.1%	1,533,013	17.3%	1,708,840	17.5%
北海道工場	2,485,647	35.4%	2,429,977	34.1%	2,421,571	30.5%	2,537,813	28.8%	2,973,000	30.4%
樺太工場	2,823,122	40.1%	3,323,263	47.7%	3,825,925	48.4%	4,525,818	51.2%	4,833,875	49.6%
朝鮮工場	203,844	2.9%	157,768	2.2%	226,326	3.0%	240,000	2.7%	220,000	2.5%
計	7,041,423	100.0%	7,093,310	100.0%	7,905,844	100.0%	8,815,643	100.0%	9,774,715	100.0%
滿洲工場			(88,177)		(71,833)		(97,499)		(111,500)	
合 計			7,041,423		7,905,844		8,815,643		9,774,715	

第二節 本邦ニ於ケル木材「パルプ」ノ輸出入状況

第一項 木材「パルプ」ノ輸入



一、木材「パルプ」輸入累年表

年次	數量		價額	
	斤	噸	圓	錢
大正三年	七六、一七五、〇一〇	四、九四九	四、五七四、二二三	六〇〇
大正四年	九〇、一三三、〇〇〇	五、三二七	五、九七四、八九三	六六二
大正五年	九六、九六六、四二一	五、七二七	九、〇七二、七一九	九三〇
大正六年	二四、〇〇〇、四四一	一、四二二	二、八〇〇、四七一	一一六三
大正七年	四八、三三三、五五四	二、八五八	六、八五五、五八九	一四一四
大正八年	六八、一七五、九二八	四、〇二九	一〇、六八七、二〇六	一五・六七
大正九年	七八、六三六、九一五	四、六四八	一三、一〇〇、三三三	一六・七七
大正十年	六五、四四五、六〇〇	三、八七五	八、八二九、一三八	一三・四五
大正十一年	一一、五二〇、二〇〇	六五、八七三	一一、七五五、四二一	一〇・五四
大正十二年	(K2,011,100)	(三五、四四九)	(六、三三三、八三九)	(一〇・五)
大正十三年	一〇〇、二二二、二〇〇	五、五五三	一〇、六三三、七七五	一〇・五四
大正十四年	一三三、一〇六、三〇〇	七、四四〇	一四、九二五、二〇六	一一・三八
大正十五年	一〇六、九一五、三三三	六、三二五	一一、〇七二、八八二	一〇・三二
昭和元年	一三〇、七二二、〇〇〇	七、一〇三	一一、九三〇、一五九	九・八八
昭和二年	一三三、八三三、一〇〇	七、三二四	一二、四五四、九八五	九・三五

(備考)  
 一、數量噸未滿四捨五入セルモノナリ  
 一、前表昭和三年輸入數量ノ種類別内譯ヲ見ルニ「グラウンドパルプ」一七六、三〇〇斤其他ノ「パルプ」一二三、六五五、八〇〇斤ノ割合ナリ  
 一、輸出入斤數ノ長噸換算率ハ總テ一六九三斤ヲ一噸トセリ以下之ニ準ス  
 一、大正十二年ノ數量及價格ハ同年八月中ニ於ケル横濱港經由輸入ノ分(關東震災災ノ爲大藏省統計簿燒失ニ付其額不明)ヲ含マサルヲ以テ括弧ヲ附シテ區別セリ以下各表共括弧ノ分ハ之ニ準ス

二、木材「パルプ」國別輸入表

輸入國	大正十四年		大正十五年		昭和二年		昭和三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
瑞典	三、四、五六四、〇〇〇斤	三、九八七、二二五圓	三、七五三、八〇〇斤	三、四七七、一二七圓	二、七六五、三九三斤	二、〇三三、五〇〇圓	一、一五六、七三八斤	一、一五七、七三六圓
挪威	八、一六二、九〇〇斤	一、〇九四、七九五圓	九、三二八、八〇〇斤	一、一七〇、三九三圓	一、八〇四、六六七斤	二、八〇三、一〇〇圓	一、五二七、六七四斤	一、二八九、九〇八圓
北米合衆國	二、一四七、四八〇斤	二、五三三、三三八圓	七、三三〇、〇〇〇斤	七、九二二、八〇三圓	五、四三三、六〇〇斤	五、四三三、六〇〇圓	二、三九四、五〇〇斤	一、二八九、九〇八圓
加奈陀	五、三九七、八二〇斤	五、七七〇、六〇五圓	五、三三三、〇〇〇斤	四、九四五、二一六圓	七、一五三、三三三斤	七、一五三、三三三圓	二、三九四、五〇〇斤	六、二五〇、八五七圓
其他	二、三九六、〇〇〇斤	一、五五九、二七三圓	一、四八九、〇三三斤	一、六三三、九五四圓	一、六六〇、四六〇斤	一、六六〇、四六〇圓	一、〇、四六七、八〇〇斤	一、三三九、八一〇圓
合計	一三三、一〇六、三〇〇斤	一四、九二五、二〇六圓	一〇六、九一五、三三三斤	一一、〇七二、八八二圓	一一、九三〇、一五九斤	一二、四五四、九八五圓	一三三、八三三、一〇〇斤	一一、四五四、九八五圓

大正二年以降過去十四年間ニ於ケル木材「パルプ」輸入ノ趨勢ヲ見ルニ數量ニ於テ大正五年迄ハ年々大體増加ノ傾向ニアリシモ同六年ニ入り急ニ激減シ翌七年ハ増加シテ前年ノ約倍額ニ上リ同八、九年ハ更ニ増加セルモ同十年ハ前年ヨリ約一割七分ヲ減セリ然ルニ大正十一年ニハ激増シ六萬五千餘噸ニ達



シタルモ大正十二年ニ入り減少シ大正十年ノ分ニ略ホ相近似スルニ至レリ然ルニ大正十三年、同十四年ハ引續キ増加セルモ十五年ニ入り稍々減少シテ六三、一五一噸トナレリ更ニ昭和二年、同三年ニハ再ヒ増加ノ傾向アリ而シテ輸入ノ平均價額ハ大正元年以來同九年迄ハ年々騰貴ノ一方ヲ辿リ同十一年ヨリ急ニ低落シ同年以降ハ歲ヲ逐フテ安價ニ傾キ十三年ニハ一斤當リ僅ニ十錢五厘トナリ大正十四年ニ幾分ノ昂騰ヲ告ケタルモ十五年、昭和二年、同三年ニハ引續キ下向ノ一方ニシテ大正五年頃ノ價額トナレリ

而シテ木材「バルプ」ノ本邦ヘノ輸入國ハ從來瑞典、加奈陀及北米合衆國ノ三箇國ヲ主トシ相互ニ競争シテ時ニ盛衰アリ大正十年ニハ加奈陀品著シク激増シ其首位ヲ占メ瑞典品之ニ次キタルモ同十一年ニハ瑞典品ハ加奈陀品ヲ凌駕シ第一位ヲ占メ加奈陀品之ニ亞キ北米合衆國、諾威ノ順序トナレリ大正十二年ヨリ昭和二年迄ハ依然加奈陀品第一位ヲ占メ瑞典品之ニ次ク尙ホ昭和三年中加奈陀品ノ輸入依然第一位ニアリテ諾威、北米合衆國、瑞典ノ順序トナレリ

### 第二項 木材「バルプ」ノ輸出

本邦産木材「バルプ」輸出ハ大正六、七年頃ニハ年々四千噸内外ニ達シタルモ翌八年激減シテ僅ニ一千百餘噸トナリ同九年ニハ一躍八千八百八十噸ノ多キニ上リタルモ同十年ニ入り再ヒ一千百餘噸ニ減少シ同十一年中輸出極メテ不振ニ陥リ漸ク三十噸ニ過キス大正十二、十三、兩年ニハ一層不況トナリ僅ニ三、四噸ヲ輸出シタルノミ更ニ大正十四年ニハ僅ニ九百斤大正十五年中ハ輸出ナカリシモ昭和二年中ハ再ヒ輸出ヲ見ルニ至リ其額百七十噸ヲ算セルモ翌三年ハ皆無トナレリ

而シテ其ノ輸出價格ニ就テモ大正九年迄ハ一斤當約金十四錢ナリシカ同十年ニハ著シク下落シ約半額トナリ僅ニ金六錢五厘トナレリ然ルニ同十一年ニハ稍持直シ九錢五厘強同十二年ニハ一斤當金九錢八厘同十三年更ニ九錢六厘ニ下リ其輸出總額ハ大正六年ニ八十七萬五千餘圓、同七年ニ百五萬餘圓同八年二十六萬四千餘圓トナリ同九年ハ急激ニ増加シテ在來ノ傾向ヲ一變シ實ニ百九十一萬餘圓ノ巨額ニ達セシモ翌十年急減シテ十二萬五千餘圓トナリ十一年ニハ更ニ減少シテ約五千圓トナリ十二年ニハ四百五十六圓、十三年六百五十六圓トナリ同十四年百五十一圓、同十五年中ハ皆無、昭和二年ハ二萬七千五百八十四圓ヲ算セルモ昭和三年ニハ再ヒ皆無トナレリ

大正九年以降ノ輸出量ヲ示セハ次ノ如シ

年次	數量		價	
	斤	噸	總數	一斤當
大正九年	一三、七四三、二八七斤	八、一八〇噸	一、九三三、七四六圓	一三、九三錢
				一噸當 二五、五五圓



年次	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年	昭和二十年
内地生産高	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800
輸入高	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800	27,800
同輸出高(内地産)	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170	170
逆輸出高(外國産)	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580	27,580
差引需要高	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560
日本製紙聯合會員消費高	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560	9,560
同百分率	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5	108.5

第三項 大正二年以降 木材「パルプ」需給高累年比較 (日本製紙聯合會調査)

年次	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	大正十六年	大正十七年	大正十八年	大正十九年	大正二十年
内地生産高	76,000	89,870	111,075	134,966	190,399	198,596	268,261	250,107	301,455	338,066	357,084	414,766	424,311	500,311	536,390	577,590	577,590	577,590	577,590
輸入高	47,133	44,994	53,294	57,277	140,234	28,548	46,448	38,775	65,873	35,447	59,553	77,440	63,151	71,300	73,144	73,144	73,144	73,144	73,144
同輸出高(内地産)	1,106	810	1,133	1,133	3,733	3,908	810	1,133	3,733	3,908	3,908	3,908	3,908	3,908	3,908	3,908	3,908	3,908	3,908
逆輸出高(外國産)	1,106	450	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106
差引需要高	133,244	134,868	165,349	192,095	179,269	233,236	306,079	287,669	367,550	416,633	492,141	563,453	637,530	670,613	644,446	604,446	604,446	604,446	604,446
日本製紙聯合會員消費高	110,600	125,078	144,841	167,884	165,456	197,385	246,537	268,809	279,140	305,338	363,934	415,514	467,677	473,463	560,065	560,065	560,065	560,065	560,065
同百分率	90.0	93.0	88.0	87.0	82.0	88.0	80.0	79.0	76.0	82.0	87.0	84.0	83.0	82.0	81.0	81.0	81.0	81.0	81.0

年次	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	大正十六年	大正十七年	大正十八年	大正十九年	大正二十年	昭和元年	昭和二年	昭和三年
内地生産高	235,377	268,261	250,107	301,455	338,066	357,084	414,766	424,311	500,311	536,390	577,590	577,590	577,590	577,590	577,590	577,590
輸入高	40,269	46,448	38,775	65,873	35,447	59,553	77,440	63,151	71,300	73,144	73,144	73,144	73,144	73,144	73,144	73,144
同輸出高(内地産)	1,106	810	1,133	1,133	3,733	3,908	3,908	3,908	3,908	3,908	3,908	3,908	3,908	3,908	3,908	3,908
逆輸出高(外國産)	1,106	450	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106	1,106
差引需要高	274,390	306,079	287,669	367,550	416,633	492,141	563,453	637,530	670,613	644,446	604,446	604,446	604,446	604,446	604,446	604,446
日本製紙聯合會員消費高	223,127	246,537	268,809	279,140	305,338	363,934	415,514	467,677	473,463	560,065	560,065	560,065	560,065	560,065	560,065	560,065
同百分率	78.0	81.0	79.0	76.0	82.0	87.0	84.0	83.0	82.0	81.0	81.0	81.0	81.0	81.0	81.0	81.0

第四項 木材「パルプ」ノ市價

木材「パルプ」ノ内地市價一封度當ヲ示セハ次ノ如シ

木材「パルプ」ノ種類	昭和三年											
	一月	三月	五月	七月	九月	十一月	一月	三月	五月	七月	九月	十一月



「グ ラ ウ ン ド パ ル プ」	「ソ ダ パ ル プ」	フルパトイアフルサ							
		「フルパ」晒未			晒				
		漂 白 ノ キ カ マ モ ノ	漂 白 ノ キ ク モ ノ	獨 逸 品	瑞 典 品	加 奈 陀 品			
内地品	瑞典諾威品	瑞典諾威品	加奈陀品	加奈陀品	内地品	獨逸品	瑞 典 品	加 奈 陀 品	
四・八〇	九・〇〇	六・五〇	六・三〇	七・〇〇	六・三〇	六・七〇	八・二〇	八・四〇	七・八〇
四・八〇	九・〇〇	六・六〇	六・四〇	七・二〇	六・三〇	六・七〇	八・四〇	八・六〇	七・八〇
四・八〇	九・〇〇	六・七〇	六・五〇	七・一〇	六・二〇	六・七〇	八・六〇	八・八〇	七・八〇
四・八〇	九・〇〇	六・七〇	六・五〇	七・一〇	六・二〇	六・七〇	八・八〇	九・〇〇	七・八〇
五・〇〇	九・二〇	六・七〇	六・五〇	七・一〇	六・六〇	六・七〇	九・一〇	九・三〇	八・二〇
五・〇〇	九・二〇	六・八〇	六・六〇	七・二〇	六・九〇	六・九〇	九・三〇	九・五〇	八・四〇

昭和四年三月二十八日印刷  
 昭和四年三月三十一日發行

農 林 省 山 林 局

印刷者 小 張 才 三 郎  
 東京市京橋區南鍛冶町九番地

印刷所 小 張 印 刷 所  
 東京市京橋區南鍛冶町九番地







579  
306



